

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：37404

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00165

研究課題名（和文）1910年代米国と20年代日本におけるマンガ「親爺教育」の美学的研究

研究課題名（英文）A Study of Character Representation in Bringing Up Father in the U.S. in the 1910s and Japan in the 1920s

研究代表者

三浦 知志（Miura, Kazushi）

尚絅大学・現代文化学部・准教授

研究者番号：20583628

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：ジョージ・マクマナス「親爺教育」について、米国で新聞連載を開始した1913年から1919年末までのエピソード群およそ2000話のリスト（掲載紙、コマ数、主題、あらすじ等）を作成した。1910年代「親爺教育」は、主人公ジグスが侮蔑的なアイルランド系アメリカ人表象から脱していく時期として、またその妻マギーが反抗的な夫に対してスラップスティック的な攻撃をしかける人物に推移する時期として捉えることができる。また、1920年代に日本に輸入された「親爺教育」のエピソード群は、ジグスやマギーが前述の変化を遂げた後のものであることもわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「親爺教育」は1923年に『アサヒグラフ』に掲載され、同雑誌の「正チャンの冒険」とともに日本にストーリーマンガを根付かせ、また人気作「ノンキナトウサン」の直接的な影響源ともなった重要な作品である。その「親爺教育」の内容が具体的にどのようなものであり、それが本国アメリカのどのような文脈で成立したのかを知ることが、日本のマンガ史の最初期を研究するための必須の作業となる。本研究はこうした作業をある程度進めることができたと考える。

研究成果の概要（英文）：In this research, we compiled a list of approximately 2000 episodes of George McManus' "Bringing Up Father," from 1913, when the series first appeared in newspapers in the United States, to the end of 1919, including the newspaper where each episode appeared, the number of panels, the subject matter, and the outline. The 1910s "Bringing Up Father" can be seen as a period in which the protagonist Jiggs moves away from the contemptuous Irish-American trope and his wife Maggie transitions into a character who launches slapstick attacks on her rebellious husband. It was also found that the group of episodes of "Bringing Up Father" imported to Japan in the 1920s came after Jiggs and Maggie underwent the aforementioned changes.

研究分野：マンガ史

キーワード：親爺教育 コミック・ストリップ アイルランド アサヒグラフ

## 1. 研究開始当初の背景

日本のストーリーマンガの表現がどのように形成されてきたのかというマンガ表現史的な問題を、「海外マンガの受容」という視点から考察しようという考えのもと、本研究は開始された。具体的には、米国のマンガ家ジョージ・マクマナスによる「親爺教育」(George McManus, *Bringing Up Father*)の、日本における影響を考察することが重要だという問題意識があった。というのも1923年に日刊『アサヒグラフ』に掲載されて以降、「親爺教育」は十年以上にわたって日本の読者を楽しませ、また麻生豊「ノンキナトウサン」を生みだし、手塚治虫を「マンガ家になりたい」と思わせるほどの力を有していたのである。「親爺教育」は日本マンガ史理解のための重要な鍵である。

しかし、日本における海外マンガの受容史について、さらにはそうした海外マンガの表現がそもそも母国でどのように成立し発展したのかについて、研究の蓄積は乏しい。長らく海外マンガを紹介してきた小野耕世や、広い視野で歴史研究を行ってきた清水勲のような例外を除けば、ようやく近年になって海外マンガ研究の重要性が研究者らに深く認識されてきた。

主導的な仕事を行っているのは佐々木果である。佐々木は『まんが史の基礎問題 ホガース、テプフェールから手塚治虫へ』(2012年)などにおいて、現代のストーリーマンガをかたちづけているさまざまな美的特徴がどこでどのように誕生したのか、あるいはその表現が誕生するための文化的な要件はどのようなものかといった、個々の美的特徴の歴史性を模索する。

本研究もまたこのスタンスを共有しながら、「親爺教育」の調査研究を行うものである。先述のように「親爺教育」は日本のマンガ史に大きな影響を与えたが、実際のところどのような影響だったのか、そもそも「親爺教育」とは何だったのか、研究者のあいだでさえ理解が進んでいるとはいえない。「親爺教育」の翻訳元のエピソード群がそれぞれどのような新聞にいつ掲載されたのかという基礎的なデータについてさえ、よくわかっていない。日本マンガ史上重要な「親爺教育」について、私たちは現在、概略的かつ断片的な先行研究に頼ることによってしか、このマンガを理解することができない。「親爺教育」の表現自体、およびそれが生みだされ消費された文化についての、もっと包括的な研究が求められている。

## 2. 研究の目的

本研究は、「親爺教育」の美的特徴を、主に1910年代米国と1920年代日本それぞれのマンガ史的文脈のなかで記述することによって、米国の「親爺教育」の何が日本に影響を及ぼしたのか/及ぼさなかったのかを明らかにする。

具体的には、1910年代までの米国マンガ史を確認しながら、1910年代から20年代前半の「親爺教育」の表現技法や物語内容を記述し、米国マンガ史における「親爺教育」のマンガ表現の意味について検討する。

## 3. 研究の方法

米国版「親爺教育」の調査:「親爺教育」のエピソード数は膨大で、米国においても「親爺教育」の全貌を一度に見ることのできる著作は存在しない。それゆえ、新聞連載が始まった1913年からおよそ十年間の「親爺教育」について、掲載された新聞や単行本、および「親爺教育」についての先行研究を調査し、上記期間のマンガ資料を網羅的にリスト化する。調査にあたっては、米国議会図書館内の新聞閲覧サービス「クロニクリング・アメリカ」(Library of Congress, *Chronicling America*, <https://chroniclingamerica.loc.gov/>)を利用する。これは、全米各地で刊行された1756年から1963年までの新聞をインターネットブラウザで閲覧できるデジタルアーカイブであり、1910年代「親爺教育」の調査を十分に行うことができる。

作者マクマナスの描画スタイルについて、および物語の演出方法について、他のマンガ家のスタイルとの類似性や、マクマナスの人間関係等を検討しながら記述する。物語内容については、20世紀初頭以降のさまざまなマンガとの共通点および相違点を記述する。具体的には「アイルランド人(貧困層)の登場人物」の系譜、「スラップスティック・ギャグ」の系譜、「夫婦生活マンガ」の系譜などを軸として記述を行う。

翻訳された「親爺教育」を調査し、での作業をもとに、翻訳版エピソードがもともと米国でいつ頃掲載されたものであるのかの特定を行う。「親爺教育」が掲載されたのは日刊『アサヒグラフ』や朝日新聞、およびその単行本であり、掲載日等のデータは図書館等を通じてリスト化する。

## 4. 研究成果

1910年代の「親爺教育」は、連載が開始された1913年1月2日から1919年末までおよそ

2000 話あり、「クロニクリング・アメリカ」および「親爺教育」先行研究を通して確認できるすべてのエピソードについてリストを完成させた。その一端は論文や研究発表の場で示しているが、リスト全体の公開については現在準備中である。

連載開始当初の「親爺教育」では、主人公ジグスの無知を周囲の人間が（読者も？）哀れに思っているように見える。ジグスは客人の前でだらしない恰好や無礼なふるまいを見せるのだが、それに対して妻マギーや娘ノラは恥ずかしさのあまりただ顔を覆ってジグスを嘆くだけである。このときに活用されているのが 19 世紀後半から普及していた、アイルランド人についての文化的コードである。連載開始当初のジグスは、額が後退し、後頭部に禿があり、顎髭を生やし、パイプをくわえた、19 世紀ユーモア雑誌のアイルランド人男性として描かれているが、当時のアイルランド人表象は外見をサルに似せた侮蔑的なものとなっており、ジグスの外見は「無教養のアイルランド人」をほのめかすものである。さらに、ジグスとマギーの組み合わせは、20 世紀転換期のアイルランド系アメリカ人を指す「レースカーテン・アイリッシュ」（経済的に余裕があり、「上流を気取るのに熱心」という含意がある）と「シャンティ・アイリッシュ」（経済的に貧しく、「粗暴で大酒飲み」という含意がある）を直ちに想起させる。

しかしほどなくして、ジグスの外見から侮蔑的な要素が消えていく。ジグスが帽子をかぶることによって後退する額と後頭部の禿は隠され、顎髭もなくなり、アイルランド的記号が失われる。連載が進むにつれて全体的に顔の造形が簡略化され、ジグスがサルであるとは見えなくなっていく。またジグスの行動についても変化が見られる。連載開始時は自身の無知を周囲に嘆かれて困惑するだけだったジグスだが、次第に上流社会に対する反抗心を鮮明にし、マギーの「教育」から抜け出そうと奮闘する。加えて、夫の無知を嘆くだけだった妻マギーは、反抗的なジグスに対して調理器具や家具などを投げつけこらしめようとするようになる。つまりジグスもマギーも、スラップスティックの演者という性質を前面に押し出すようになる。

なぜ「親爺教育」が侮蔑的なアイルランド人の記号を消すことができたのかについては、ケリー・ソーパーの研究が示唆を与えてくれる。ソーパーによれば、作者マクマナスは「親爺教育」のアイデアを、ヴォードヴィルというさまざまな出自の客が入ってくる場所から得ており、「親爺教育」はそもそも特定の民族を貶めて笑う種類のマンガではない。「親爺教育」舞台化に関する 1914 年の新聞記事もこのことを示している。「昨日のミュージカル・コメディ「親爺教育」は大勢の観客を楽しませた。すばらしいスタイルと笑いの渦。作者が描くように、社交界で親爺を教育するとなると面白いことがいくつもある。全三幕の間中、笑える台詞や愉快な仕草ばかり」（1914/9/5 Perth Amboy Evening News）「だれよりもアイルランドの人たちがこの「親爺」を心から笑っている、というのもこのキャラクターは決してアイルランド人に恥をかかせない...ガス・ヒルの演出は入念にできており、壮麗な舞台背景と理想的な豪華出演陣が見られる」（1914/9/17 Evening Journal）

今回の調査の結果、マギーが調理器具をジグスに投げつけるようになり、「親爺教育」がいよいよスラップスティック・コメディとなったのは、1915 年頃だということが明らかとなった。1915 年以降、このマンガは全米のどの地域でも老若男女に読まれる普遍的なものとなる。文通相手を求める少女の新聞投稿にも「「親爺教育」を読むのが好き」と書かれている。

「親爺教育」が『日刊アサヒグラフ』に翻訳掲載されたのは 1923 年 4 月であるが、ここで掲載されたエピソードの数々は本国では 1918 年に新聞掲載されたものであり、「親爺教育」がすでに前述の普遍化を遂げた後のことである（下表を参照）。岡本一平はこのマンガについて「おやじは成上りの小金持ち愛蘭人である。米国で愛蘭人と言えば山出しの小理窟をこねる放埒もの。おやじの性格や推して知るべしである。妻君は成上り根性の虚栄坊しかも焼餅やきと来ている」と述べており、日本でもジグスをアイルランド人のステレオタイプから捉える視点の存在を確認できるが、一方で、『日刊アサヒグラフ』の読者投稿欄には「マクマナス氏の漫画滑稽洒脱、敬服敬服。失礼ながら日本漫画家の何人も企及し得ない妙味があります。洋の東西を問わず親爺のヤル事は大概一致していますネ。毎朝臍の皮を捻らして居ります」（全国版、1923/4/12）ともあり、特定の民族の物語ではないという受け止め方もされている。「親爺教育」は日本を含め世界中で人気を獲得したマンガだが、その理由のひとつが「普遍化」にあると言えそうである。

ともあれ本研究は、「親爺教育」を日本マンガ史の文脈からのみ、しかも概略的にのみ捉えている現在の状況において、「親爺教育」の表現や内容を米国の文脈から記述し、さらにその表現や内容が日本で普及した状況を一定程度説明することができたと考えている。日米双方の文脈を把握することでようやく「親爺教育」の影響の実際を知ることができるのであり、本研究が日本のマンガ史をよりよく把握する基盤となることを願う。

もちろん残された課題も多い。まずは 1910 年代「親爺教育」のリスト全体を急いで公開する必要があるが、加えて日本における「親爺教育」受容の状況を深く考察する必要がある。とりわけ同時代の人気マンガである東風人・織田小星「正チャンの冒険」や、麻生豊「ノンキナトウサン」との関連で「親爺教育」を考察しなければならないだろう。日本のストーリーマンガ最初期におけるこの重要な三作品については、2023 年 12 月に研究シンポジウムが開催されたが、これを機にさらに研究を活発化させたい。

表：『日刊アサヒグラフ』「親爺教育」開始一週間分の、米国新聞掲載について

米国の新聞掲載	米国の単行本掲載	日刊アサヒグラフ掲載
1918/3/14 The Wheeling Intelligencer	Vol.2(1919), No.23	1923/4/2 全国版
1918/1/15 Albuquerque Morning Journal	Vol.3(1919), No.10	1923/4/3 全国版
1918/2/15 Richmond Times Dispatch	Vol.3(1919), No.8	1923/4/4 全国版
1918/7/24 Arizona Republican	Vol.3(1919), No.4	1923/4/6 全国版
1918/7/31 Arizona Republican	Vol.3(1919), No.18	1923/4/7 全国版
1918/2/14 Albuquerque Morning Journal	Vol.3(1919), No.6	1923/4/8 全国版
1918/3/25 Evening Times Republican	Vol.2(1919), No.4	1923/4/9 全国版

1910年代半ばは、シンジケートから全米の新聞にマンガを配信するというビジネススタイルが主流となった時期であり、「親爺教育」もさまざまな新聞に掲載されている。上表「米国の新聞掲載」欄に記載の新聞は、それら「親爺教育」が掲載された新聞のほんの一例にすぎず、あくまで今回の調査で各エピソードを確認できた新聞というだけである。

#### 主要参考文献

岡本一平『紙上世界漫画漫遊』旺文社文庫、1983年。

Harvey, Robert C., "Father Was More Than Just Another Nut Case," in George McManus's *Bringing Up Father*, ed. by Jeffrey Lindenblatt, New York: NBM Publishing, 2009.

Holtz, Allan, *American Newspaper Comics: An Encyclopedic Reference Guide*, The University of Michigan Press, 2012.

McManus, George, "Jiggs and I," *Collier's*, January 19, 1952, pp.9-11, 66-67.

Soper, Kerry, "From Swarthy Ape to Sympathetic Everyman and Subversive Trickster: The Development of Irish Caricature in American Comic Strips between 1890 and 1920," in *Journal of American Studies*, 39(2005), 2, pp.257-296.

Soper, Kerry, "Performing 'Jiggs': Irish Caricature and Comedic Ambivalence toward Assimilation and the American Dream in George McManus's *Bringing Up Father*," in *Journal of the Gilded Age and Progressive Era*, 4:2(April 2005), pp.173-213.

Chronicling America: Historic American Newspapers, The Library of Congress  
(<https://chroniclingamerica.loc.gov/>)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三浦知志	4. 巻 54
2. 論文標題 1910年代「親爺教育」の「カトゥーン」スタイルとスラップスティック	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 尚綱大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 91-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24577/seia.54.0_91	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦知志	4. 巻 52
2. 論文標題 「親爺教育」1913-14年の新聞掲載状況に関する報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 尚綱大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 169-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24577/seia.52.0_169	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 三浦知志
2. 発表標題 「親爺教育」の成り立ち
3. 学会等名 学習院大学人文学部研究所シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------